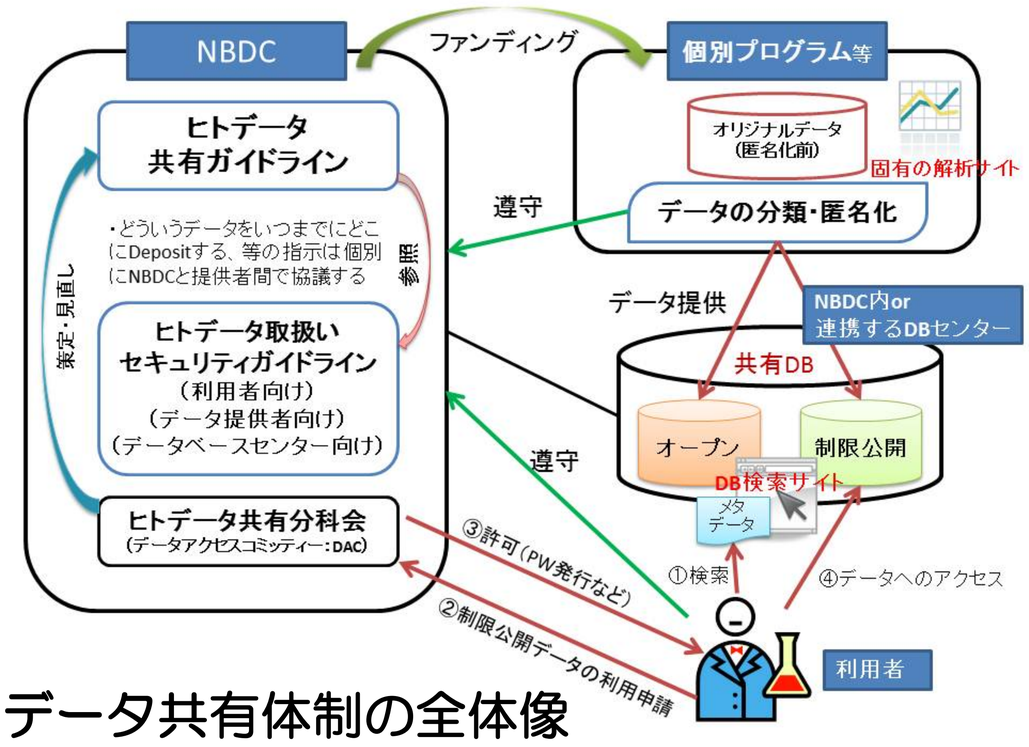
ヒトデータ共有に向けた体制整備について

○箕輪真理，三橋信孝 （科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター）

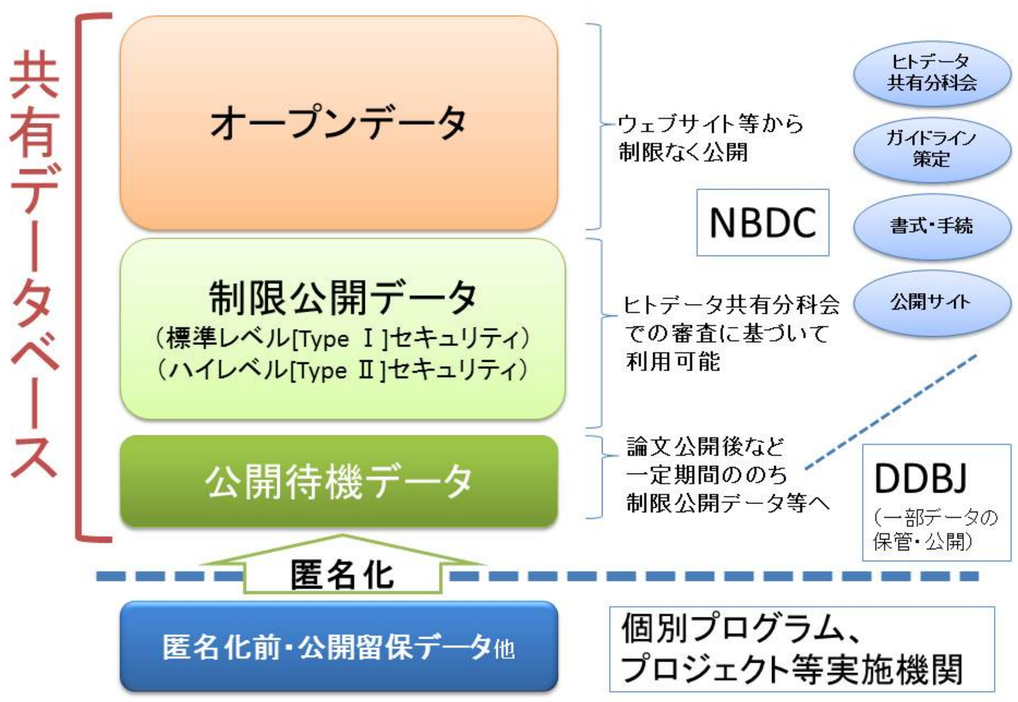
ヒトデータ共有化推進のために解決すべき課題

- 国内での共通ポリシーの不在
- データの管理、共有審査などを一元的に行う機関の不在
- 既存プロジェクト等での理解やルールとの整合性
- データ提供者により異なるセキュリティに対する考え方

⇒セキュリティレベルを2段階に整理し、データの分類や手続きをできるだけ簡素かつ明確化して、国内での共通ルールとなりうる“基本ガイドライン”の設計



データ共有体制の全体像



データの種類と各機関の役割

- オープンデータ：アクセス制限なく利用可能
- 制限公開データ：利用者、目的などの事前審査を経て、研究利用が可能。セキュリティの措置や、報告が必要
- 公開待機データ：データ提供者による成果発表後に公開予定
- 匿名化前・公開留保データ：各プロジェクトや実施機関が保有する匿名化前のデータ等

NBDCヒトデータ共有ガイドライン

◇基本的な考え方

- ●『データ共有』の骨格となるガイドラインを策定
- ●データの管理・共有審査をNBDCが実施
  シンプルなルールによる運用が必要
- ●ポリシー
  広く収集／広く公開／データの適正な管理
- ●すべてのデータは原則公開
  オープンデータと制限公開データ（および公開待機データ）
- ●データ提供者との合意に基づき公開データを整備
  さまざまなデータの格納を想定
  データの分類や提供時期などを調整
  匿名化必須
- ●ガイドラインの見直しを包含
  データ提供者、データ利用者からの意見収集
  データ共有に関する理解の変化への対応も検討
- ●ウェブサイトからの提供・利用時の申請方法を採用(予定)

NBDCヒトデータ取扱いセキュリティガイドライン

◇基本的な考え方

- ●データ利用者、データ提供者、データベースセンターで共通のセキュリティ基準を適用
- ●各種データについては、標準レベルのセキュリティを原則適用。必要に応じてハイレベルの適用を検討

セキュリティルールの適用範囲について

➢標準レベルセキュリティ

- 所属組織内LAN内部での利用が原則
- 監査の実施（検討中）
- データ取扱い現場の環境に合わせ、具体的な施策は自ら考えてもらう
- dbGaP Best Practice Requirements, Wellcome Trust Human Genetics Data Security Policyを参照

➢ハイレベルセキュリティ（標準レベルの対応に加えて以下を実施）

- 入室管理および記録
- 用途専用のサーバー室あるいはサーバーラックを施錠管理

トーゴーの日シンポジウム 2012　ライフサイエンスデータベース統合の医学への応用を探る
会期：2012 年 10 月 5 日（金）　於：時事通信ホール

Licensed under a Creative Commons表示2.1日本license
(c)2012 バイオサイエンスデータベースセンター